広島県議会一般質問

知事、ダム貯水効果説明

プラン合言葉 議員苦言も

広島県議会は20日、一般質問を始めた。湯崎英彦知事は、西日本豪雨で下流が広く浸水した沼田川の上流にある椋梨、福富の両ダム（いずれも東広島市）について、ピーク時にためた水量がそれぞれ130万㌧、150万㌧だったと説明。洪水を防ぐ機能を一定に果たしたとの認識を示した。

豪雨による記録的な雨量で、椋梨、福富ダムはともに、流れ込んだ水の量が過去最大となった。それに伴い7月6～7日、二つのダムは計280万㌧の水をためこむ効果を発揮したと紹介。上流から流れ込む量を減らして放流する「洪水調節」がなされたと説いた。

二つのダムは一方で、下流に流した水量も過去最大を記録。下流域で生じた約700㌶の浸水被害との関係が焦点となっている。県は10月にも、初の緊急放流をした野呂川ダム（呉市）とともに、調査結果を有識者検討会の部会に示す。

災害に備えて本庁や出先機関の庁舎で備蓄している食料の量について、現在の「2日分」を増やす考えも示した。土井司危機管理監が「国は3～7日間などとしている。今回の豪雨時の対応を検証し、備蓄量を見直す」と述べた。具体的な日数は今後、検討する。

一般質問は、西日本豪雨の発生後で初めて。狭戸尾浩氏（自民議連、大竹市）

鷹広純氏（民主県政会、広島市安佐南区）尾熊良一氏（公明党議員団、福山市）の3人が、災害対応や復興策について県の姿勢や方向性をただした。

鷹広氏は質問の冒頭、県が復旧・復興プランで掲げた合言葉「ピンチをチャンスに。見せちゃれ、広島の底力！」について「違和感がある」と指摘。「家族を亡くした方は、ピンチやチャンスという次元ではない苦しい気持ちではないか」と苦言を呈した。（樋口浩二）

時速20㌔未満「グリーンスローモビリティ」

小型電動車 鞆・走島に導入

福山市 来月にも実証運行

4人乗りのグリーンスローモビリティ（福山市提供）

福山市は10月にも、高齢者の移動手段の確保や観光客の散策支援を目的に、国が推奨する環境に優しい小型電動自動車「グリーンスローモビリティ」の実証運行を始める。観光地や公共交通が細る過疎地での活用を図るため、鞆町と離島の走島町で有効性を検証。来年度の本格導入を目指す。

国土交通省が普及に向け、本年度初めて公募した実証調査都市に選ばれた。モビリティは時速20㌔未満で公道の走行が可能。窓のない構造が特徴で、狭い道も運転しやすい。国が4人乗りと7人乗り（各幅133㌢、高さ184㌢）の計2台を無償提供し、運行費用も負担する。

実証運行は10月中旬から来年1月までの間、鞆町で2週間、走島町で1日を予定する。同市のバス事業者の鞆鉄道とタクシー事業者のアサヒタ

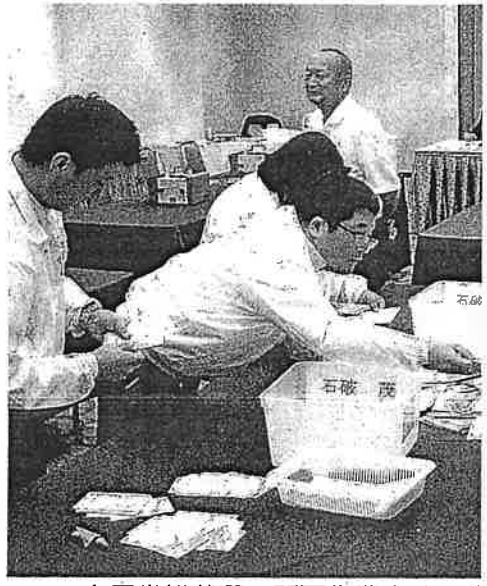
する。市は乗
ト、採算性、
削減効果など
乗りは観光客
として走らせ
路線を決め
る。

鞆町は江戸
る町並みが人
い道が多く路
トが限られる
スやタクシ
く、高齢化率
手段の確保が
いる。

市都市交通
が高い乗り物
風も感じられ

「集大成に

自民安倍総裁



自民党総裁選の開票作業をする党職員たち（20日午前8時50分、広

に 与野党で分かれた 選
立を組む公明党広島県本部
の田川寿一代表代行は「経
済政策で結果を出してお
り、さらなる成果に期待す
る。西日本豪雨の復旧・復
興や災害対策の強化も必要
だ」と望んだ。山口県本部
の先城憲尚幹事長も「良か
った。新しい歴史を築いて
ほしい」と歓迎した。

一方で、立憲民主党島根

す 政権への
首相が打ち上
具体性がな
山県連の高宮
は「安保法制
る重要課題で
事実を積み重
政治手法を問

国民民主党
知基弘幹事
ミクスで暮
ったとは、誰

がん

広島県は、がんの予防や啓発に会社ぐるみで取り組む「Team（チーム）がん対策ひろしま」に、県内に本社や事業所がある31社

中国総合